

平成29年度事務事業進行管理表(自治振興センター用)
(環境ISO管理)

事務事業名	一般事務及び施設管理業務
センター名	座光寺自治振興センター

1 環境側面及びそれに伴う環境影響

通常時	非通常時	緊急事態	環境側面	影響評価						著しい環境側面
				1	2	3	4	5	6	
○			紙の消費	×	×	×	×	×	—	
○			電気・LPガスの消費	×	—	×	—	×	—	
○			水の消費	×	—	—	—	×	—	
○			施設の緑化	—	—	○	○	—	○	
	○		フロン漏れ	×	—	×	—	—	×	
	○		公用車の廃棄	×	×	—	—	×	×	
		○	灯油流出	×	—	—	×	—	×	
		○	LPガス漏れ	×	—	—	—	—	—	

【作成上の注意】

- 「通常時」は通常の業務・作業の条件下で発生する可能性が大きい場合、「非通常時」は業務・作業の開始・終了時、停止時、故障時などの条件下で発生する可能性が大きい場合をいいます。
- 「環境側面」は、環境と相互に作用する、又は相互に作用する可能性のある組織の活動又は製品又はサービスの要素です。
- 影響評価は、1：典型7公害(大気、水質、土壌、騒音、振動、地盤沈下、悪臭)、2：廃棄物発生/抑制、3：地球温暖化の進行/抑制、4：自然の破壊/保全(緑地、生物多様性、水辺)、5：資源の枯渇/保全、6：その他(有害物質、景観)の分類ごとに実施します。
- 評価基準は、分類ごとに、環境側面が与える環境影響について、影響範囲、発生頻度、影響の重大性(最悪を想定)を考慮して判断します。
- 影響評価の結果の表示は、良い影響大：○○、良い影響小：○、影響なし：—、悪い影響小：×、悪い影響大：××と表記します。
- 影響評価の内容により、課長が著しい環境影響があると判断した場合は、「著しい環境側面」とし、○を入力します。

2 環境側面に伴う順守義務

法令、例規、利害関係者のニーズと期待のうち順守すると決定したもの	要求事項	順守評価	
		中間	年間
廃棄物の保管	廃棄物保管の表示、分別の徹底、飛散・流出・浸透・悪臭防止の措置	○	○
施設の管理	防火管理者の選任	○	○
施設の管理	消防用設備の点検(1回/年)及び結果報告	○	○
施設の管理	避難訓練計画の届出及び訓練の実施(1回/年)	○	○
灯油貯蔵タンクの管理	貯蔵、取り扱い、自主点検の実施	○	○
フロン類の漏出防止	第一種特定製品の簡易点検と廃棄時の適正な処置の実施	○	○
家電類の廃棄	家電リサイクル法に応じた廃棄時の適正な処置の実施	—	—
公用車の廃棄	リサイクル券の適正な保管及び廃棄時の適正な処置の実施	—	—

- 順守評価が必要なものについて記載します。
- 組織の状況等の検討表の「2 利害関係者のニーズと期待」において「うち、順守義務とするもの」と決定したものを転記します。
- 順守評価結果は、良：○、否：×、期間中に要求事項に該当する内容なし：—で表示します。

3 リスクと機会(上記1及び2に関係するもの)

リスク (マイナス要素)	紙・電気等の消費、産業廃棄物の排出、火災の発生、灯油の流出、フロン類の漏出
機会 (プラス要素)	グリーン商品の購入、施設の緑化

4 環境目標

番号	区分	環境目標 ①実施事項(何を) ②達成期限(いつまでに) ③結果の評価方法(どのような水準に)	年間スケジュール 環境目標達成のための 手段・方法・手順	中間評価		年間評価	
				進捗状況・成果 (監視・測定・分析・評価)	達成 状況	進捗状況・成果 (監視・測定・分析・評価)	達成 状況
1	①	紙の消費を	両面印刷、裏紙利用の推進 と会議資料の簡略化による 紙の削減を図る。半期ごと検 証し、職員の自覚を促す。	対前年比0%で増減 なし。	○	中間評価結果により 職員に自覚を促した ことで対前年比 94.7%と目標を達成 した。	○
	②	年度末までに					
	③	対前年比3%減を目指す					
2	①	施設の緑化を	施設周辺の花木の管理す る。夏季はグリーンカーテン を設置する。	山ぶどうのつるを 伸ばしグリーンカー テンの範囲を広げ ることができた。	○	桜・りんご・山ぶどう など施設周辺の緑化 に年間通じてとりむ kおとができた。	○
	②	年間を通じて行い					
	③	明るい環境づくりを目指す					
3	①						
	②						
	③						

4 環境目標

番号	区分	環境目標 ①実施事項(何を) ②達成期限(いつまでに) ③結果の評価方法(どのような水準に)	年間スケジュール 環境目標達成のための 手段・方法・手順	中間評価		年間評価	
				進捗状況・成果 (監視・測定・分析・評価)	達成 状況	進捗状況・成果 (監視・測定・分析・評価)	達成 状況
1	①	環境意識の啓発事業を	子ども桜ガイドや自然学習を通じて自然環境保全意識の醸成を図る。全市一斉水辺等美化活動や啓発事業実施時に合わせた美化活動などへ市民参加を呼びかける。	29名の小中学生が4月に4回桜ガイドを行った。事前学習で環境について学び、ガイドすることで大切さをより実感し、意識向上に繋がった。	○	桜ガイド以外に水辺の広場での水生生物調査やホテルの観察会など実施し、多くの市民参加があった。	○
	②	年度末までに					
	③	3回以上市民参加で実施する					
2	①	廃食用油の回収を	広報などにより地区内周知を図りながら、循環型社会・環境教育を推進する。	期間中回収は8本。前年同期間の実績より2本少ないものの、取り組みは地区内に定着している。	×	10月回収業者が事業撤退したため、新たな業者を探り12月末から再開ができた。回収は11本。前年比△4本。	×
	②	年度末までに					
	③	対前年同量の回収を目指す					
3	①	アルミ缶を	リサイクルステーション開設日に合わせ、アルミ缶を回収し、集積所の改修や福祉活動に活用する。	期間中、延べ1,144人の利用あり。収益の一部を活用し、ごみ集積場の改修を1件行うことができた。	○	期間中、延べ2,137人の利用あり。収益の一部を活用し、ゴミ集積場の維持管理費に当てることができた。	○
	②	年間を通じて回収し					
	③	収益を環境・福祉に活用する					